

総合的な学習の時間 「福祉体験『手話』」

鎌倉市立玉縄中学校



単元（題材）目標

- 福祉が「全ての人の幸せ」という意味であることを理解し、福祉活動の意味や役割に関心を持つ。
- 福祉の実践意欲を向上させ、身近な地域で福祉活動に積極的に関わろうとする態度を身につける。
- 障がい者や認知症への理解を深め、地域社会の一員として共生社会を目指す態度を身につける。

（１）実施時期

令和元年10月23日（水）

（２）対象（学年等・人数）

第1学年 希望者50名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第1学年所属2名

外部講師 社会福祉協議会職員3名

（４）実施内容

①「聴こえない」ことを体験する。

- ・ゲーム形式で「聴こえないのは誰？」を行い、外見ではわからない障がいであることを体験する。

②不便なことを知る。

- ・講師の体験談を聞き（ミニ講演）、補聴器とはどのようなものか、また聴こえないことをカバーできるように様々な工夫された日常生活用具を実際に使ってみて、どのように役立っているかを知る。

③基本的な手話を学び、使えるようにする。

- ・ミニ講演の中で、日常よく使われる手話「挨拶」「日常用語」「数字・指文字」などを学ぶ。
また、指文字を事前学習で学んだ生徒数名が自分の名前を講師や他の生徒の前で披露し、講師がそれをフォローした。全員の名字の表現の仕方を一緒に行った。
- ・事前に「知りたい手話」を募集して伝えていたものを講師が取り上げてくれ、学校や授業、部活に関わる手話を学ぶ。「手話を習得するのにどれくらいかかるか」などの質問が出ていた。「いろいろな人がいる。お互いに理解し合えるようにすることが大切」であるということを学ぶ。

（５）成果〈子どもの学び〉

○体験談や日常生活の工夫を知ることで聴覚障がいがあるとはどのようなことを学ぶ機会となった。

○指文字や手話で自分の名前を表現し、日常生活に関わりの深い手話を学ぶことができた。
また、世界の手話に関することを知ることができた。

〈生徒感想・お礼の言葉より〉

- ・聴覚障がいのある人は、いろいろなことに注意しなくてはならず、大変だと思いました。
私達も今回の学習を自分が困ったときに活かしたいし、困っている人のために活かしたいと思いました。

（６）その他〈子どもの感想〉

○事前指導で、手話の歴史や身の回りの手話についての概要を簡単に学ぶ場面を設けた。

○指文字などは事前に50音表を配布して、自分の名前を表現してみるなど、手話に対するイメージを膨らませるようにした。